

RENPOUDO'S COLLECTION

及四连奉色



# LATE SUMMER

#### 奥田連峯堂

TEL:075-561-3655

FAX: 075-525-1148

営業時間:11時~18時

定休日:毎週水曜

〒605-0073 京都市東山区祇園町

北側244

https://www.renpoudo.com

renpoudo@mth.biglobe.ne.jp



# オールバカラ ショットグラス 6客組

昭和 径5.8cm 高さ7.5cm

葡萄や桃などのフルーツが描かれたショットグラスです。

エッチングの技法でそれらの文様が装飾されています。

エッチングは、フッ化水素と硫酸の混合液でガラスを 腐食させ、文様を彫り出す技法です。

底にはバカラのマークが入っています。









#### オールバカラ

# アルジャンティーナ クープ グラス 6客組

#### 昭和

9.3cm 高さ6.8cm

アール・デコ期に製造された「アルジャンティーナ」は、南米のアルゼンチンのことを意味しております。 デフォルメされた蔦や草花がエッチングで描かれています。

足が大きく安定感があります。デザートや前菜の器としてもお使い頂けます。

底にはバカラのマークが入っています。









# 青磁象嵌小瓶

朝鮮 高麗時代 口径3.2cm 胴径7cm 高さ12cm

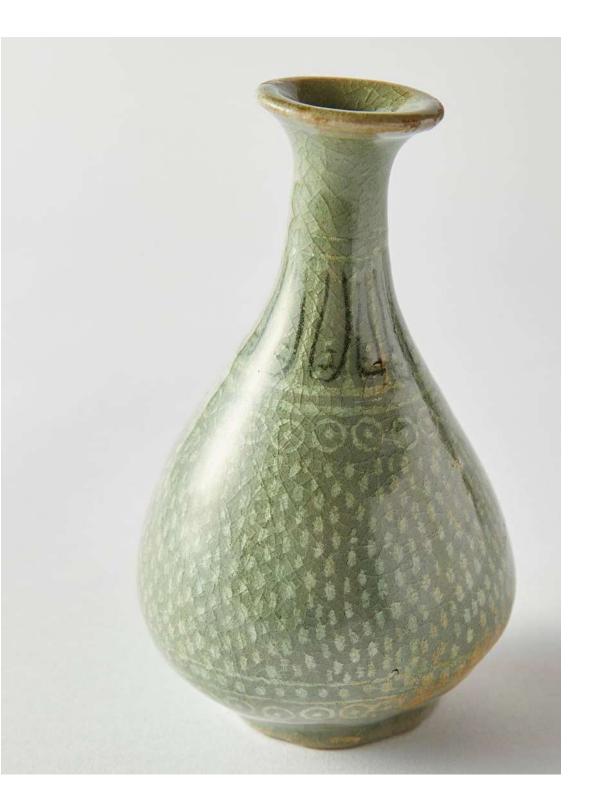
この瓶の形は「玉壺春瓶」と呼ばれる形で、下膨れの腹に細い頸、ラッパ型に開く口を持つのが特徴です。 全体に細かな貫入が入っています。素地に彫り文様をあらわし、そこに白や黒の異なる色の土を埋め、その上から青磁釉をかけて焼き上げた象嵌技法が用いられています。

口縁に釉切れがありますが、その他は良い状態です。













# 染付菊形香炉 初期伊万里

江戸時代 径8cm 高さ7cm

菊形の凹凸になっており、蔦の画が染付で描かれています。

初期伊万里は、1600年代前半に作られたと伝えられる、日本で最初の磁器、伊万里製品です。

絵付けの前に素焼きを行わず、本焼きする「生掛け焼成」を用いています。そのため、温かみのあるしっとりとした風合いに仕上がります。

口縁に気になるほどではありませんが、薄く短いニュウが2本あります。









## 香煎壷一対

#### 清閑寺焼

江戸時代

左:径6.5cm 高さ13cm 右:径7.5cm 高さ10cm

清閑寺焼は、京都の古窯です。窯は今の東山区清閑寺山の内町のあたりにあったもので、

旧清閑寺領丸山、後世茶碗坂または茶碗山といった地です。

ひとつは下部分に緑釉がかかった無地で、もうひとつ は菊と撫子が描かれています。どちらも京焼特有の肌 に細かい貫入が入っています。高台は無銘です。

香煎とは、米または麦類を炒ってから粉末にしたもの の総称です。









# 祥瑞 吉字香炉、雲鶴松原蒔絵四方盆 一式

(祥瑞 吉字香炉) 中国 明時代末 径5.3cm 高さ3.5cm

(雲鶴松原蒔絵四方盆) 江戸中期 径19cm×18cm 高さ2cm

香炉は、中国明時代末期に作られ、その後、日本に渡ってきた祥瑞と呼ばれる手です。この香炉は大変小さく、こちらの蒔絵の盆にぴったりです。胴に吉の字が白抜きされています。3ヶ所、吉の字が入っています。

お盆は、表と裏の両面に細かな蒔絵が施されています。それぞれ雲間に鶴、波と松が蒔絵されており、表側は鶴が飛び立つ様子、裏側は鶴が舞い戻る様子が蒔絵されています。



















# 泥刷毛目呉須扁壷 河井 寬次郎

共箱 昭和

口径7.5cm 胴径16cm×14.5cm 高さ24.5cm

泥刷毛目とは、意に染まない筒描をやり直すために生 乾きの泥漿を布で拭った際に、偶然拭き後に残った激 しい荒波の様な模様の面白さに気づいたことから生ま れた寛次郎独創の技法です。呉須の色はその深い藍色 の中に渦巻く盛り上がったうねりが躍動感を表現して います。このエネルギッシュな表現は無作為であるか のように見えて、寛次郎の確かな意志をもって見る者 に迫ってくるようです。

箱の蓋の一部分に、少し焦げたような跡が見られます。







8.丸紋辰砂鉢河井 寛次郎

共箱 昭和 径21cm 高さ6.9cm

見込みの全体に辰砂釉が掛かり、大小の丸紋が6つ描 かれています。









# 海鼠釉鉢

# 河井 寛次郎

河井つね極箱 昭和 径20.4cm 高さ8cm

混ざりあった青と白の神秘的な釉薬の発色が美しいです。寛次郎は京都市立陶磁器試験場に入り、後輩の浜田庄司と約1万種類の釉薬の試験焼きをするなど釉薬の研究にも熱心でした。

釉色が中国の宮廷料理の高級食材である海鼠(ナマコ)に似ているところから命名されたと言われています。











# 白釉鉄絵水指

## 濱田 庄司

共箱 人間国宝

昭和

口径13cm 胴径18cm 高さ20.5cm

白釉の白と、鉄絵の黒のシンプルな色合いで、濱田の 代表的な文様である唐黍文が連続して描かれていま す。内側も鉄釉が掛かっています。

濱田庄司は、益子焼の人間国宝で、柳宗悦・河井寛次郎らと民藝運動を起こした一人です。









# 掛分盛絵花瓶

#### 濱田 庄司

共箱

人間国宝

昭和

口径12cm 胴径24.5cm 高さ27cm

白と黒の釉薬を掛け分けた器面に盛絵と呼ばれる技法 で上からジグザグに盛り上げています。

掛分とは、化粧掛けをした素地へ、白い失透釉薬と黒釉の2種類の釉薬を掛けたものです。庄司が好んで用いた技法のひとつです。

庄司は自身の作陶人生を「私の陶器の仕事は、京都で道を見つけ、英国で始まり、沖縄で学び、益子で育った」と言っています。







# 草花絵四方向付 6客組 十三代 楽 惺入

共箱 大正-昭和 径13.8cm×13.8cm 高さ3.5cm

全体に白楽釉がかかり、見込みに草花が描かれ、内側 面には文様が彫られ、その上から緑釉が掛かっていま す。









## 義山金縁小皿 5客組

#### 昭和 径12cm×9cm 高さ3cm

義山(ギヤマン)とは江戸時代、ダイヤモンド(金剛石)のことを表した言葉です。オランダ語diamantの訛りとも、ポルトガル語diamaoの訛りとも言われます。本来はダイヤモンドそのものを言っていましたが、水晶などの宝石類や、ダイヤモンドで加工されたカットグラスを含めて、広くガラス製品一般の呼称ともなり、すでに早く室町時代末期に、オランダ人によって製法が伝えられていた酒杯や瓶、鉢などのガラス製の器具ビードロと混同され、板状のガラス板を除いたガラス製品を総称してギヤマンと呼ばれました。金縁に小さなホツが見られます。







# 鶴蒔絵厚物椀 10客組

昭和 径13.2cm 高さ7cm

蓋を開けると見込みと蓋の裏にそれぞれ鶴が蒔絵されています。 見込みにヤケが見られます。









# 朱鶴蒔絵椀 10客組

昭和 径12cm 高さ9cm

蓋の表の中心には福の字が書かれています。蓋を開けると見込みと蓋の裏に鶴が飛んでいる様子が蒔絵されてます。









# 水松貝蒔絵吸物椀 10客組 表寬 作、楊光堂 監製

共箱 昭和 径11.8cm 高さ8.5cm

水松貝 (ミルガイ) は海松貝とも書き、お椀の表側に 蒔絵されています。蓋を開けると見込みと蓋の裏に渦 文様が蒔絵されています。









# 名取川蒔絵煮物椀 10客組

#### 象彦

共箱 昭和 径13.8cm 高さ9cm

和歌の枕詞としても知られている名取川(宮城県)の 情景を描いたものです。蓋を開けると蓋の裏に波間、 見込みに飛ぶ千鳥が蒔絵されています。

象彦は、江戸時代より続く京都の漆器商です。三井家 をはじめとする旧財閥や皇室などの愛顧をうけて、数 多くの名品を制作しました。





# 丸模様研出蒔絵吸物椀 10客組

#### 美濃屋

共箱 昭和 径11.5cm 高さ8.5cm

蓋の表と、身の表に丸紋様が蒔絵されています。内側は無地です。

美濃屋は、京都の漆器商で、顧客の家格や趣味に応じてオーダーメイドの高級漆器を作っていました。器の形・大きさ、漆の色・艶、図柄、文様といったことを一から要望を聞き、考え、作っていました。漆器には塗りや蒔絵など多くの工程がありますが、美濃屋の腕の良い職人たちが、それぞれの高度な技術で支えていました。







# 19. 染付緣小紋向付 10客組 4代 三浦 竹泉

共箱 昭和 径14.5cm 高さ7cm

中国 明時代末の古染付を写したものです。真上から見ると角が丸い三角形のような形です。

三浦竹泉は、京焼(清水焼)の窯元・名跡です。代々 三浦竹泉と名乗っています。4代竹泉(明治44 - 昭和 51)は、主に煎茶、抹茶道具を制作しました。









20.

# 染付牡丹文六寸皿 10客組 古伊万里

江戸時代 径18.5cm 高さ3cm

見込みに牡丹の花が描かれ、縁には竹などが描かれ、 輪花状の縁になっています。 高台内に染付で角福銘が有ります。



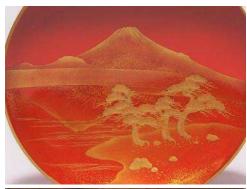




21. 富士名所蒔絵朱利休形引盃 20客組 木村 寿斎

共箱 明治 径11.1cm 高さ2.5cm

20客にそれぞれ構図の違う富士山の風景が蒔絵されています。









23.

# 白磁珈琲碗(小) 6客組 竹中 浩

白磁珈琲碗(大) 6客組 竹中 浩

共箱 昭和- 共箱 昭和-

カップ:口径5.7cm 高さ5.8cm ソーサ:径14.8cm 高さ1.8cm

カップ:口径7.4cm 高さ7.0cm ソーサ:径17cm 高さ2.5cm

No. 22の珈琲碗(小) はエスプレッソを入れるくらいの小さめのサ イズです。縁は金で縁取られ、側面は面取りが施されています。 ソーサは丸形ではなく、十二角形となっています。

No. 23の珈琲碗(大)は、No. 22に比べて少し青みがかった白磁で す。こちらも側面は面取りが施されています。ソーサには凹凸の 文様が入っています。

竹中浩は、京都府 無形文化財に認定 された現代日本の 白磁を代表する作 家です。













# 仁清写高安の里扇面大皿 16 代 永楽 善五郎 (永楽 即全)

共箱 昭和-平成 縦32cm 横48cm 高さ5.5cm

伊勢物語の中の一場面が描かれている扇面の大皿で す。三つ足です。

高安は、大阪 八尾市の高安地域のことで、古くより 難波・河内と大和を結ぶ要衝として人や物が往き来し た所であり、古事記にも記されるなど歴史性豊かな土 地です。











# 25. **菊絵緑高 6客組** 11代 中村 宗哲

共箱 大正-昭和 径19.5cm×19.5cm 高さ6cm

1つずつに蓋が付いた縁高です。蓋の表から側面にかけて菊が漆で描かれています。 裏側には「哲」の描銘が入っています。

中村家は、400年近く続く塗師です。 茶道に関わり三 千家に出入りする塗師・指物師など十の職家である千 家十職のひとりです。









# 萩茶碗

#### 三輪 休和 (10代 三輪 休雪)

共箱 人間国宝 昭和 径13.5cm 高さ9.5cm

昭和42年に家督を譲って「休和」銘となって以降の晩年期におけるお茶碗です。

白釉と赤の対比が美しくわずかに轆轤目を見せております。

高台脇に「和」の銘があります。

三輪休雪は山口県萩市の萩焼窯元・三輪窯の当主が 代々襲名している陶芸作家としての名跡です。

休和は、川喜田半泥子が主催した、からひね会に参加し、同世代の荒川豊蔵や金重陶陽と親交を重ね、古陶磁に学び、茶の湯を楽しみ、作陶精神を高めあいました。







# 萩茶碗

# 11代 三輪 休雪

共箱 人間国宝 昭和 径14cm 高さ9.5cm

三輪休雪の代名詞とも言える雪のように化粧掛けされた白萩釉は、休雪白と名付けられました。 その休雪白と呼ばれる白釉が雪のように厚がけされています。

高台脇に「休雪」の押印が有ります。

11代休雪は、昭和42年、兄 休和の 隠居に伴い、11代休雪を襲名しまし た。その後、萩焼で人間国宝に認定 されました。











# 松竹梅蒔絵重箱

昭和

径18cm×18cm 高さ26cm

丸紋の松、蔦状(唐草)の竹(笹)、赤い梅の松竹梅となっています。

見込みは黒地で、縁は銀縁となっており、四段重です。

蓋は2つあり、裏側の図柄が違います。ひとつは鶴が 雲間を飛んでいます。もうひとつは日の出と鶴が蒔絵 されています。







# 染付山水絵花生 15 代 永楽 善五郎 (永楽 正全)

共箱 昭和 口径19cm 胴径28cm 高さ41.5cm

飾り映えのある堂々とした立派な花生です。 手前に大きな松が繊細な筆致で細かく描かれ、奥には 山々が連なっている様子が見えます。 耳は遊環になっています。木製の台が付属していま す。

永楽善五郎は、京焼の家元の一つで、千家十職の一つ であり、代々土風炉、茶碗などを製作してきました。









# 神代欅拭漆小箱 萩井 好斎

共箱 昭和 径13.5cm×22.5cm 高さ14.5cm

神代とは太古から土に埋まっていた木のことで、いわゆる埋もれ木です。

その貴重な神代欅を使った小箱です。

外側の木目が印象的です。蓋を外すと真ん中に三段の 引出し、その両脇に高さの少し違う二段の小箱が現れ ます。三段の引出しは下の台と一体となっています。

萩井好斎 (1934 - 2000) は大阪の指物師で、主に茶 道具の指物を制作しました。











# 群翔花瓶

# 新開 寛山

共箱 昭和

径 (耳含) 50cm 口径38.5cm 高さ43cm

大きな口に耳が付き、胴には鳥の群れがシンプルにデ ザインされた大ぶりの花瓶です。

新開寛山は近代工芸を代表する京都の陶芸家です。祖 父に帝室技芸員の3代清風与平を持ち、新開自身は5代 清水六兵衛に師事しました。









## 辛唐茗荷図幅

# 富本 憲吉

紙本 共箱 人間国宝 昭和19年 幅57cm 長さ128cm

若い頃、装飾を勉強した富本はすぐれた図案家でもありました。「模様から模様を作らず」ということを信条とし、過去の伝統的な作品の模様をそのまま用いることはありませんでした。自然の草木を直接写生し、それをもとに新たな模様をつぎつぎ創造していきました。

軸先がやきものでできています。軸先部分に富本憲吉 の印などはありませんが、恐らく富本が作ったもので はないでしょうか。







# 富岳図幅

# 池田 遙邨

絹本 共箱 昭和 幅42cm 長さ123cm

雲海に浮かぶ富士山(富岳)が描かれています。

池田遥邨は岡山 倉敷に生まれ、その後、竹内栖鳳の 画塾・竹杖会に入門し、画を学びました。池田は、生 涯 自然と旅を愛し全国を旅して回りました。本作品 も旅の途中で見た景色なのでしょう。







# 秋景野趣図幅

# 小松 均

絹本 共箱 昭和 幅72.5cm 長さ155cm

手前に田畑や家が描かれ、その後ろには大きくそびえる山々が見えます。上空には流れる雲が描かれています。山や木々の所々に、赤や青色が差してあります。

小松均は山形に生まれ、日本画家の川端玉章の画塾 川端画学校で学びました。その後、京都の大原に移り 住み、大原を題材にした画を描いたり、故郷 山形の 最上川を題材とした画を描きました。本作品もそのよ うな景色をモチーフにしたのでしょう。







# 時鳥画賛幅

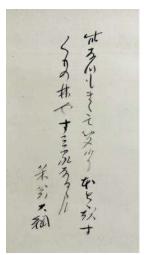
# 大綱 宗彦 賛、 土佐 光清 画

紙本 共箱 江戸時代 幅46.5cm 長さ110cm

土佐光清が時鳥の画を描き、大徳寺435世 大綱宗彦が 賛を書いています。

この夏も ふたて 聞くなり ほととぎす くもの林や すみ家なるらん

「米翁大綱」と書いてあることより米寿の時に書いた 最晩年のものです。









## 嵐山秋色図幅

#### 森 寛斎

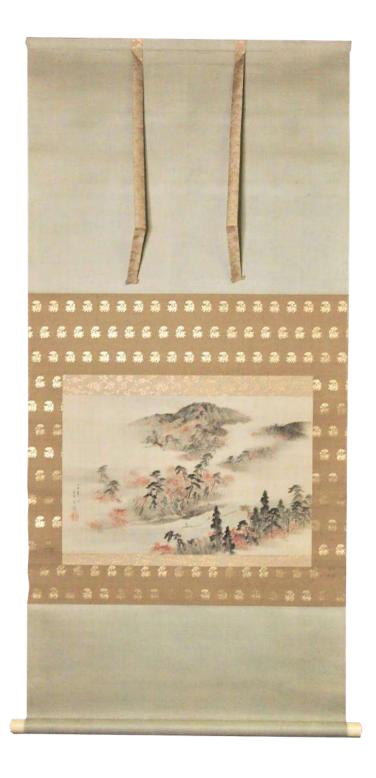
絹本 奥谷秋石極箱 帝室技芸員 明治 幅54cm 長さ120cm

紅葉し始めた嵐山が描かれています。霞がかり、その中を悠然と2艘の舟が川を下っています。1872年(明治4)に描かれました。

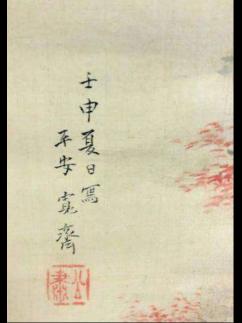
森寛斎は森狙仙を祖とする森派の絵師です。長州 萩の生まれで、円山派の森徹山に師事しました。その後、京都画壇の中心的存在となり、明治の応挙とまで言われました。

門下の奥谷秋石の極め箱があります。

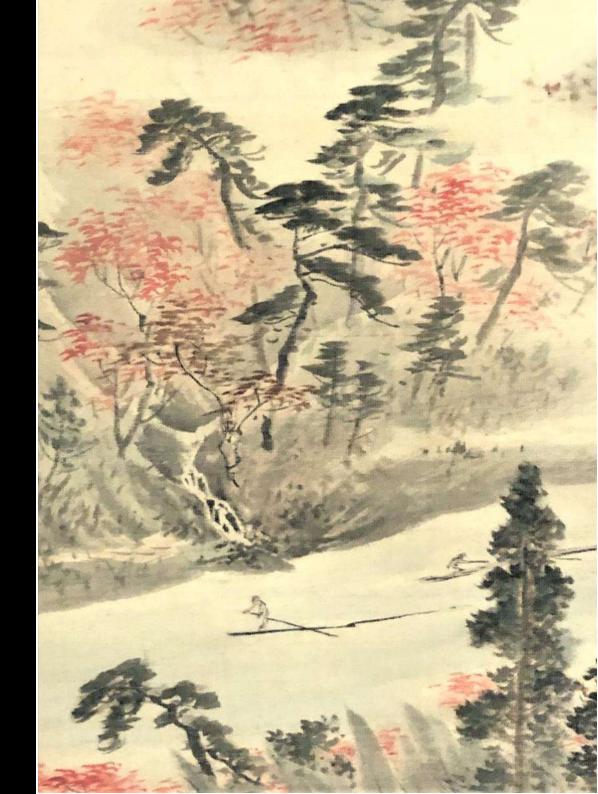












#### 額扇面「五風十雨」

#### 熊谷 守一

熊谷守一水墨淡彩画鑑定登録会登録証書 1975年

額:縦53cm 横73cm

扇面に「五風十雨」と墨で書かれています。 五風十雨とは、字のごとく、五日ごとに風が吹き、十 日ごとに雨が降るということで、気候が穏やかで順調 なことで、豊作の兆しとされます。また、世の中が平 穏無事であることの例えとしても用いられます。

守一が95歳の時の作品です。左下に「九十六才」(数 え年)と書かれています。熊谷守一水墨淡彩画鑑定登 録会の登録証書が付いています。

守一はこのような書を、90歳を過ぎてから書き始めた そうです。こちらは、扇子に書いてもらうよう依頼が あったのでしょう。以前の持ち主が扇子から骨を抜 き、額装したため、骨の部分が白抜きになっていま す。





# 作家略歴 (五十音順)

#### 池田 遥邨

1895 (明治28) 年 - 1988 (昭和63) 年 松原三五郎に入門、洋画で文展に入選 したが、大正のはじめ日本画に転じ、 竹内栖鳳に師事した。昭和3年「雪の大 阪」、5年「烏城」が帝展特選。11年か ら母校の京都市立絵画専門学校(現京都 市立芸大)で教えた。28年から青塔社を 主宰。51年芸術院会員。62年文化勲 章。岡山県出身。本名は昇一。

#### 永楽 正全(15代 永樂善五郎)

1880 (明治13) 年 - 1932 (昭和7) 年 14代妙全の甥。妙全の没後、1932 (昭和7) 年までの約5年間、15代として活躍しました。妙全生存中はその代作に当たり、大正初年には信楽へ赴きました。建仁寺4世竹田黙雷老師より「正全」の号を受けました。

#### 永楽 即全(16代 永楽善五郎)

1917 (大正6) 年 - 1998 (平成10) 年 14代得全の甥15代正全の子。妙全の養 嗣子。三井家・三千家に出入りし数々 の名品を作る。茶道隆盛と共に現代の 名工の一人に数えられる。

#### 河井 寛次郎

1890 (明治23) 年 - 1966 (昭和41) 年島根県生まれ。東京高等工業学校窯業科卒後、京都市陶磁器試験場に入所。京都市五条坂に窯を築き作陶を行う。東洋古陶磁の技法による作品を制作していたが、民藝運動に関わり、実用を意識した作品に取り組むようになる。文化勲章、人間国宝、芸術院会員への推薦を辞退。

#### 熊谷 守一

1880 (明治13) 年 - 1977 (昭和52) 年 写実画から出発し、表現主義的な画風 を挟み、やがて洋画の世界で「熊谷様 式」ともいわれる独特な様式、極端な までに単純化された形、それらを囲む 輪郭線、平面的な画面の構成をもった 抽象度の高い具象画スタイルを確立し た。「二科展」に出品を続け「画壇の 仙人」と呼ばれた。

#### 小松 均

1902 (明治35) 年 - 1989 (平成元) 年 山形出身。土田麦僊に学ぶ。昭和3年福 田豊四郎らと新樹社を結成。5年帝展特 選。21年日本美術院賞。代表作は連作 「最上川」。61年文化功労者。1928年 から京都近郊の大原に住み、大原の風 景を題材にした作品を多数残して「大 原の画仙」と称せられた。

#### 新開 寛山

1912 (明治45) 年 - 没年不詳

京都生。帝室技芸員の三代清風与平を 祖父に、四代を伯父に持つ。河村蜻山 に師事。その後、五代清水六兵衛の指 導を受ける。第七回日展特選。1979 年、京都府美術工芸功労者受章。1983 年京都市文化功労者受章。1984年叙勲 勲四等旭日小授章受章。1989年、京都 府文化賞特別功労賞を受ける。

#### 芹澤 銈介

1895 (明治28) 年 - 1984 (昭和59) 年 静岡市生まれ。東京高等学校図案科卒 業後、生涯の師である柳宗悦と沖縄の 染物紅型に出会ったことにより型染め を中心とした道に進む。1956年、人間 国宝に認定。

#### 大綱 宗彦

1772 (安永元) 年 - 1860 (安政7) 年 京都出身。臨済宗。京都大徳寺住持。 同寺塔頭黄梅院に住む。歌をよくし,書 画に優れ、10代千宗左,11代千宗室らと まじわった。日記に「黄梅院大綱日 記」など。

#### 竹中 浩

1941 (昭和16) 年 -

福井県立若狭高校を卒業後、近藤悠三に師事。有田、越前、上越を歴訪。昭和45年に独立、京都市山科に築窯。白磁・染付・色絵を中心に作陶を展開。昭和56年日本陶磁協会賞を受賞。平成7年京都府無形文化財保持者に指定。平成9年色絵盤が大英博物館に収蔵される。日本伝統工芸展入選21回、日経奨励賞、松下賞。英国ヴィクトリア&アルバート美術館、東京国立近代美術館買上。

#### 土佐 光清

1805 (文化2) 年 - 1863 (文久2) 年 土佐派の分家土佐光孚の長男。画法を 父に学び、さらに古画を研究する。宗 家をついだ弟土佐光文とともに名を知 られたが、病弱だったという。号は鏡 水。

#### 富本 憲吉

1886 (明治19) 年 - 1963 (昭和38) 年 奈良県安堵村生まれ。東京美術学校図 案科建築部卒業。在学中にイギリスへ 留学。帰国後、滞日中のバーナード・ リーチと親交を結び、リーチが6世尾形 乾山に入門する際に手引きと通訳を し、13年みずからも郷里に楽焼、次いで15年本焼の窯を築いて作陶の道に 入った。37年帝国芸術院会員、44年東京美術学校教授、64年京都市立美術 学教授になる。55年色絵磁器によりに認 要無形文化財技術保持者(人間国宝)に認 定、75年文化勲章受章。

#### 11代 中村 宗哲

1899 (明治32) 年 - 1993 (平成5) 年 9代次男忠蔵 名は八郎兵衛 号は元斎 大正初めから昭和へ、戦乱を経た70 年、三千家の好み物など制作。三井家 の桐浪台子、即中斉好源氏十二月茶 杓、誰が袖四季棗など作す。京都府文 化功労者。茶道文化功労者。昭和60年 12代に跡を譲り隠居。

#### 濱田 庄司

1894 (明治27) 年 - 1978 (昭和53) 年神奈川県生まれ。東京高等工業学校(現東京工業大学) 窯業科に入学、板谷波山に師事。同校を卒業後は、河井寛次郎と共に京都市立陶芸試験場にて主に釉薬の研究を行う。この頃、柳宗悦、富本憲吉、バーナード・リーチの知遇を得る。大正9年、イギリスに帰国するリーチに同行、共同してセント・アイヴスに築窯。大正13年、帰国し、沖縄・壺屋窯などで学び、その後、栃木県益子町で作陶を開始。昭和30年、人間国宝に認定。

#### 4代 三浦 竹泉

1911 (明治44) 年 - 1976 (昭和51) 年 2代竹泉の長男。号 篩月庵。京都美術専 門学校に学び、絵画・陶芸ほかを修 行。昭和6年、4代竹泉を継承し、製陶 に従事。主に煎抹茶器を制作。作風は きわめて巧緻にして優美。昭和47年、 長男徹に家督を譲り隠居す。

#### 三輪 休和(10代 三輪 休雪)

1895 (明治28) 年 - 1981 (昭和56) 年 山口県出身。 15歳の時から、祖父雪山 および父9代に師事する。昭和2年、父 の隠居に伴い10代休雪を襲名。昭和42 年、三輪窯を弟(11代休雪)に譲り休和 と号した。昭和45年、重要無形文化財 (人間国宝)「萩焼」の保持者に認定。昭 和48年、勲四等旭日小綬章。

#### 11代 三輪 休雪

1910 (明治43) 年 - 2012 (平成24) 年 9代の三男として山口県萩市に生まれま した。号を休(襲名前)・休雪(襲名後)・ 壽雪(隠居後)。中学校を卒業後、兄・ 10代休雪(休和)に師事して家業に従事 しました。川喜田半泥子にも師事しま した。昭和58年、重要無形文化財(人間 国宝)「萩焼」の保持者に認定。平成2 年、勲四等旭日小綬章。

#### 森 寛斎

1814 (文化11) 年-1894 (明治27) 年 長州藩出身。森徹山の養子、帝室技芸 員、明治の応挙と呼ばれる。

#### 13代 楽 惺入

1887年(明治20) - 1944年(昭和19) 十二代弘入の長男。1919年家督を継承、吉左衛門を襲名。作風は、独自に各地の鉱石を研究し、釉薬に生かせないかと研究し、鉱石釉黒茶碗などを制作。

楽茶碗のほかにも織部、志野、備前など、各地の陶磁も積極的に制作している。また、茶碗以外にも水指、花入、向付など様々な茶道具作品、また寿老人像などの置物にも意欲的に取り組んだ。また箆技術においても、個性的なた。また箆技術においても、個性的な表現が多く、全体的に見ると大胆な力強い作品を多く残している。没後、惺斎宗左より号、惺入を賜る。

